# 令和５年度 オホーツク海外海放流ホタテガイ貝柱歩留不良予報*

概況

４月と５月の４つの観測値のうち、東部海域では最大平均貝柱歩留と最大クロロフィル濃度の２項目が不良で、貝柱歩留不良の発生確率はやや高いと予想されます。また、西部海域での観測値は最大海水温差を除いた３項目が良好で、貝柱歩留不良の発生確率は低いと予想されます。

**海域：オホーツク総合振興局管内東部海域**

**レベル：2**

予報期間：令和５年（2023 年）6～7 月（短期）
発生確率：0.583～0.600
予報期間：令和５年（2023 年）6～10 月（長期）
発生確率：0.400～0.417

**海域：オホーツク総合振興局管内西部海域**

**レベル：1**

予報期間：令和５年（2023 年）6～7 月（短期）
発生確率：0.133～0.176
予報期間：令和５年（2023 年）6～10 月（長期）
発生確率：0.067～0.118

| 警戒レベル | 意味 |
|---|---|
| 1 | 発生確率が極めて低い |
| 2 | 発生確率は短期でやや高く、注意が必要 |
| 3 | 発生確率が高水準であり、警戒が必要 |
| 4 | 発生確率は最高水準にあり、十分な警戒が必要 |
| 5 | 広域・長期にわたり発生確率が高く、全域で十分な警戒が必要 |

注：貝柱歩留不良予報は、4、5 月の４つの観測値、最大平均貝柱歩留、最大貝柱グリコーゲン濃度、最大クロロフィル濃度、最大海水温差（最高水温－最低水温）から、6、7 月の短期と、6～10 月の長期の貝柱歩留不良を統計的確率モデルで予測しています。

---

* この予報は、北海道ほたて漁業振興協会からの受託研究「ホタテガイ成長モニタリング調査」結果によるものです。